

日差しの端が、一日に畳の目一つずつ、部屋の奥から縁側に移動していきます。

「春の小川はさらさらいよく、岸のすみれやれんげの花に、すがたやさしく色うつしく、咲けよ咲けよとささやきながら」

今年の春は被災地の皆さまにとって特別の季節です。寒さと雪で覆われた現実が雪解けとともに現れます。復興の決意を新たにす春なのです。希望をこの春とともに芽吹かせましょう。

さて「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、芽吹きた暖かき花の色香に満たされた暖かき春が、お彼岸とともにやってきます。

お彼岸



TOUGEN NEWS

3月1日(金)

発行所 桃源院
 発行責任 桃源院 広報部
 〒191-0065 日野市旭が丘3-1-4
 編集 河野覚然 遠藤隆幸
 042-583-1133



上記の図のように、春のお彼岸は**中日(春分の日)**を中心にして、そこから前後に3日間、つまり、合わせて7日間の一週間がお彼岸の期間となります。最初の日を「彼岸の入り」といい、最後の日を「彼岸の明け」と言います。そして真ん中の日の春分の日を「**中日**」と呼びます。

「供養は、亡くなってからするもの」と思っていないですか？なぜ死んでから供養するのでしょうか？親は死んでから供養されるより、生きていたときから親孝行されるほうが喜ばずです。ことわざにも「親孝行したい時には 親はなし」といいます。

「父母恩重経」のなかに親の大恩が教えられています。先祖供養を待たず、親が活着しているときにも親の恩を知り、親の恩に報いるようにしたいものです。

まもなくお彼岸を迎えます。亡き親やご先祖の墓前まで出かけて行って、報恩感謝を届ける行事とされるお彼岸週間では、六つの徳目が説かれます。お彼岸はこの実践週間でもあります。

六つの徳目は**六波羅蜜**といひます。波羅蜜とはサンスクリット語で、彼岸に至るという意味で、「到達・完成」といった感じでしょうか。六波羅蜜とは、まっすぐに仏に向かい合い、仏に近づく為の六つの心がけを行いましようということです。

3月17日	3月18日	3月19日	3月20日	3月21日	3月22日	3月23日
布施	持戒	忍辱	中道	精進	禅定	智慧



六波羅蜜の実践には**布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧**の真ん中に**中道**という項目があります。春分の日に当て、昼と夜の長さが同じで、極端に寄らずに中道を行くという心掛けです。

例えば、車を運転していたとします。多くの人は、左右の路側帯の通行は避けて、センターラインと路側帯の間の通行帯を余裕を持って走行します。ある人は、センターラインに近く通行する。ある人は、路側帯近くを運転する。それぞれに癖はあるでしょうが、センターラインをオーバーすることは事故につながります。路側帯を走ることは左に余裕がありません。このように何事も極端に寄らずに、幅の余裕ある中道を行きましようという心がけです。幅のある余裕の立場であることを大切にします。

桃源院 宮城本院 本堂 桃源院 礼拝堂 紫雲・白雲 永代供養納骨堂 眺峰堂 最寄駅

所在地
 青雲 東京都日野市旭が丘3-1-4
 紫雲 東京都日野市旭が丘1-10-4
 TEL 042-583-1133
 FAX 042-583-1134
<https://momo.or.jp/>

桃源院 東京別院 桃源院 青雲 3階 桃源院 青雲 4階・5階 桃源院 東京別院 全体地図 桃源院 納骨仏壇 梅庭庵

「法輪転ずれば、食糧全うす」
 (正しい教えを一生懸命奉ずれば、おぼはじろに生きていくことは出来るものだ)。という言葉を座右に置き、今日の活動にまわっております。

桃源院本院年間予定

2024年

- 3月20日 春彼岸大般若会
- 4月8日 花まつり
- 4月 護持会総会準備会 監査
- 4月 護持会総会
- 5月 教区護持会総会
- 6月 仏教会総会
- 6月 大本山特派布教
- 6月 仏教会花祭り
- 8月 第9教区護持会研修
- 8月 お盆棚経
- 9月23日 秋彼岸 施食会
- 12月8日 成道会
- 12月 微笑会

2025年

- 2月15日 涅槃会
- 3月20日 春彼岸大般若会

桃源院別院年間予定

2024年

- 3月16~17日 春彼岸合同供養
- 4月 8日 花まつり
- 7月 6~7日 お盆合同供養会
- 7月12~15日 お盆棚経
- 9月14~15日 秋彼岸合同供養

2025年

- 3月15~16日 春彼岸合同供養会

「枯木寒巖」の絶縁体であることを宣言したので老婆は怒ったのである。山岡鉄舟(一八八八年没)は、幕末から明治初期にかけての政治家で明治維新の功労者です。剣と書道に勝れただけでなく禅者としても有名です。鉄舟の主治医の千葉立造は鉄舟を尊敬して、鉄舟について禅を学んでいます。立造はあるとき、本心に禅を修行するには性欲を断たねばならぬと決心した旨を鉄舟に述べると、鉄舟は「その決心は結構だが、どのような手段で性欲を絶つつもりか」と問います。立造は「私は今から一生を終わるまで妻を遠ざけて情事を行いません」と答えると、鉄舟は「それは情欲を断つのではなく、ただ抑えるだけで、臭いものには蓋をする類ではないか」と指摘します。「では、どうしたら欲情を解決できるでしょうか」と教えを求める立造に対し鉄舟は、「本当に情欲を断ちたいなら、情欲の正体は何か、自分で見極めるがよい。教えられてわかるものではない」と突き放し



山岡鉄舟



千葉立造

鉄舟自身もこの性の問題で悩んだそうです。そして悩みに悩んだすえに、本心に身近な、庭に咲く花を見て悟りました。それは子孫を残すための生殖という真理そのもの、その花の美しさだったのでしょう。性欲は生命ある限りなくなるものでもなく失せるものでもありません。それを絶とうと

するのまた迷います。禅語でいう「流れに随って(しかも)流れに委せず」という世界…一緒に悩みましょう…どうやら人生とは「悩む」ことのようにです。これもまた人生、楽しい人生ではないでしょうか。



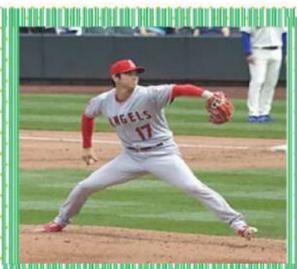
石霜禪寺 (中国湖南省)

「枯木にして去る」(枯木にして去るとは枯木になり切るということです) 「枯れ木の意如何」 「しからばわが法の究極を實踐しよう。線香に火を点ぜよ。われこの線香の火の消えざるうちにわが肉体を離脱するであろう」

引きとったのです。大衆は讚歎して、やはり首座は自在を得ていた究極位の人だと言いました。しかし九峰はこれを肯定することはしませんでした。歩み寄って坐死した首座の遺体に近づき、その背を撫でながら、

「坐亡は見事じゃ、しかもかくのごとくなりといえも先師の不動心は汝の夢にも知らざるところ」 私たち人間は仏性に統御されています。統御されている限り、五欲は煩悩ではなくて仏性そのものの働きといっても過言ではないはず。私性から離叛を失ったとき、人間は人間から。

師である石霜禪師が人寂した時の話です。石霜の後を継いで石霜山の住持たるべきものは誰か。常識では石霜山の首座(第一座)が就任すべきです。しかし、そのとき石霜禪師の侍者、九峰が猛烈に反対して、首座と自分と対決し、自分が敗けたら喜んで首座を住職と仰いで仕えようと主張したので、そこでいよいよ大衆(修行僧団)の前で対決することになりました。まず九峰が質問しました。 「先師、石霜禪師は常に不動心を説かれた。その不動心の意如何」 首座は直ちに答えて言いました。



[布施]

ヤンキースからドジャースに移籍した、日本のヒーローである大谷翔平MLBプロ野球選手はドジャースとともに、100万ドルを被災地に寄付してくれました。私たちになかなか出来ない大変な功德です。しかし、私たちは金品に限らずいろいろな施しができます。大切なことは私たちの出来ることで、相手の役に立ちそして喜んでもらえるかどうかなのです。「無財の七施」と言って、お金や財産に関係なく、いつでもどこでも、そして誰にでもできる布施があります。

- ① 優しいまなざし(眼施) 優しいまなざしは人を快い気分にさせてくれる。相手に対する優しいまなざしも布施です。
- ② おだやかな顔(和顔施) 眼だけでなく顔も同様です。おだやかな顔は周りの人にもなごやかな気持ちにさせます。
- ③ 優しい言葉(言辞施) 思いやりのある言葉、心のこもった言葉をかけると、相手を幸せにすることが出来ます。
- ④ 身をもって行動する(身施) 人の嫌がるような仕事でも、率先して実行することも大事です。
- ⑤ 相手の気持ちになって考える(心施) 相手を思いやる心を持つことも大切な布施の一つです。
- ⑥ 席を与える(床座施) 座わる場所をつくってあげることです。座席だけでなく、家庭や学校、職場などで役割や責任、期待という席を手配してあげる。
- ⑦ 親切なおもてなし(房舎施) 寄る場の無い人を招いて、仲間に入れてもらう。仲間というシェルターは 本心に大事です。



また布施には、物質的な「財施」、安心を与える「無畏施」、仏法を説く「法施」という分け方もあります。与える人も、物も、またそれを受け取る人も、「俺がくれてやったんだ」「しょうがないからもらってやったんだ」「これは価値が有るとか無い」といったことのない、両者とも布施の心は清浄でなければなりません。

[持戒] 欲望を制御して、迷惑なことをしないように自覚的に実践すること。規律正しく生活を調べ、マナーや約束を守ること。

[忍辱] 自分の思うようにならないことがたくさんある。しかし思うようにならないとって、腹を立ててばかりもいられない。じっと我慢しなければならぬことがしばしばあるものです。

[精進] 精進は、ただ努力することではなく、目的を定めて進むのです。間違っていると到達しません。例えば名古屋に行きたいのに、間違えて青森に向かったら名古屋からは離れるだけになってしまいます。

[禅定] 心を安定させること。生活全体を調べながら、心の安定を身につけていくこと。思考や妄想から離れて、精神を集中させる、坐禅も効果があるといわれます。



[智慧] 真実や目的の方向を見極める眼をもつこと。「布施」・「持戒」・「忍辱」・「精進」・「禅定」と相まって相乗効果で本当の智慧となるのです。